

リンゴの機能性研究や商品開発に取り組んでいる弘前市の会



「医果同源りんご機能研究所」が開発したリンゴの葉だけで作ったお茶

リンゴの葉だけでお茶

社「医果同源りんご機能研究所」が、リンゴの葉だけで作ったお茶「りんご葉の茶」を開発した。同社によると、リンゴの葉だけで作るお茶を商品化するのは珍しい。

お茶に使うのは、直径1センチほどの小さな赤い実をつける中国

医果同源(弘前)

新商品発表会

原産の「湖北海棠」という品種。所長を務める元弘前大学農学生命科学部准教授の城田安幸氏によると、湖北海棠の葉には、ふじなどの実とは異なる種類のポリフェノール「フロリジン」が多く含まれ、老化防止や血糖値の上昇を抑える効果が期待できるといふ。

自生する湖北海棠は日本では絶滅したため、県産業技術センターりんご研究所が遺伝資源として保存している木から枝を譲り受け、同社の農園で接ぎ木をして177本まで増やした。収穫した葉を高温で焙煎することで青臭さを取り除き、甘みを引き出せるように工夫した。

開発担当の城田文香さんは「農薬を使わずに作った、人にも自然にも優しいお茶。これからの本格的に寒くなってくる季節に、ゆっくりと楽しんでほしい」と話していた。

21日まで中三弘前店地下1階で試飲ができる新商品発表会を行っている。価格は5袋入り756円(税込み)。1袋、15袋入りもある。

(伊藤ほなみ)